



ナイチンゲール生誕 200 周年・看護の日 30 周年に向けて 第 10 回「忘れられない看護エピソード」作品募集開始

5月12日の「看護の日」に合わせ、看護する側、受ける側の交流を800字で募集
今回は、看護職を対象に「Nursing Now 部門」を設置！
2020年夏、BS日テレで受賞作品をドラマ化！

応募締め切り：2020年2月21日(金)

2020年、看護の基礎を築いたナイチンゲールは生誕200年を迎えます。これを記念し「Nursing Now キャンペーン」が世界各国で実施されています。そして2020年は「看護の日」制定から30周年でもあります。

そんな中、看護職へ関心を持ってもらい、看護の大切さを感じてもらいたいと公益社団法人 日本看護協会(所在地:東京都渋谷区/会長:福井トシ子)は、今年も「看護」に関する忘れられない思い出や心温まるエピソードを募る第10回「忘れられない看護エピソード」の募集を開始することとなりました。

厚生労働省と日本看護協会は、毎年5月12日の「看護の日」と同日を含む日曜日から土曜日までを「看護週間」とし、この期間を中心に様々な事業を展開しています。本コンクールはその取り組みの一つで、看護の現場で生まれた心に残るエピソードを募集・表彰するものです。受賞作品を通し、看護の大切さを感じていただくと共に、看護の心やケアの心を育む一助となることを目的としています。前回の第9回は2,629作品のご応募をいただきました。

本コンクールでは、看護師など看護を行う側の方々を対象とした「看護職部門」と患者さんやそのご家族など看護を受ける側の方々を対象とした「一般部門」を募集します。さらに今回は「Nursing Now キャンペーン」に合わせ、現役看護職と看護職に就いていた方を対象に、看護の力を発揮して、人々の健康に貢献したことを実感した看護実践・経験について審査する「Nursing Now 部門」を加えた3部門でエピソードを募集します。各部門において、看護を通じて得られた思い出や体験を広く募り、心温まる印象的な作品を選出します。受賞作品は2020年5月9日(土)の表彰式で発表予定です。

また受賞した複数作品をドラマ化し、BS日テレでの放送やYouTube配信をする予定です。本コンクールを通し、皆様に「看護の心」や生きることの素晴らしさを感じていただく機会となれば幸いです。



■第10回「忘れられない看護エピソード」について

「看護」を通して得られた、忘れられない思い出やエピソードについて広く募集します。特別審査員・内館牧子氏(脚本家)をはじめ、ゲスト審査員や厚生労働省、日本看護協会の関係者により、作品を厳正に審査します。

【コンクール概要】

- ・タイトル : 第10回「忘れられない看護エピソード」
- ・応募締め切り : 2020年2月21日(金)
- ・URL : <https://www.nurse.or.jp/episode/>
- ・主催 : 厚生労働省、日本看護協会

<本件に関するメディアの方からのお問合せ先>

日本看護協会 PR 事務局(インフォメーションセンター) 担当:佐々木
Tel:03-3563-3181 Fax:03-3562-5267 E-mai:sohei@info-ginza.com

【「看護職部門」「一般部門」「Nursing Now 部門」の3部門で作品を募集】

看護を通して得られた忘れられない思い出を募集する「看護職部門」(看護師など看護を行う側の方々を対象)と「一般部門」(患者さんやそのご家族など看護を受ける側の方々を対象)の他、看護の力を発揮して、人々の健康に貢献したことを実感した看護実践・経験について募集する「Nursing Now 部門」(看護師など看護を行う側の方々を対象)の3部門において選出を行います。

【前年度実績】

9回目の開催となる前回は2,629作品が全国各地から集まり、表彰式では受賞20作品の発表と最優秀賞・内館牧子賞の表彰が行われました。第9回は、悪性リンパ腫で次第に体の自由がきかなくなる中、「まだ一人で行ける」ことに合わせて病室の様様替えをして患者さんに寄り添った看護師のエピソード「部屋の模様替え合戦」が「看護職部門」最優秀賞を受賞。2度の死産を乗り越え、3度目に子供を授かった女性をずっと「お母さん」と呼び、励まし続けた看護師のエピソード「『お母さん』」が「一般部門」の最優秀賞を受賞しました。

■心温まるエピソードをドラマ化

最優秀賞・内館牧子賞を受賞した2部門各4作品の中から複数作品を選出し、ドラマを制作します。作品は本会ホームページに掲載されるほか、BS日テレにて放送されます。

■審査員紹介



©Chihaya Kamimokawa

特別審査員

内館牧子(うちだて まきこ)

<プロフィール>

脚本家。秋田市生まれ。1988年脚本家デビュー、2006年東北大学大学院文学研究科修了。代表作は、ドラマ「都合のいい女」(フジテレビ)、「ひらり」(私の青空)(NHK連続テレビ小説)、「毛利元就」(NHK大河ドラマ)、小説「義務と演技」(幻冬舎)、「終わった人」(講談社)等。第1回橋田壽賀子賞、文化庁芸術作品賞、日本作詩大賞、放送文化基金賞など多数受賞。

第1回より本コンクールの特別審査員を務めている。

その他、ゲスト審査員、厚生労働省・日本看護協会関係者などが審査を行います。

■賞について

Nursing Now 賞	:	Nursing Now 部門	ナイチンゲールゆかりの地ロンドンの往復航空券(1作品)
最優秀賞	:	看護職部門／一般部門	賞金20万円(各部門1作品)
内館牧子賞	:	看護職部門／一般部門	賞金10万円(各部門1作品)
優秀賞	:	看護職部門／一般部門	賞金3万円(各部門3作品)
入選	:	看護職部門／一般部門	「看護の日」オリジナルナースキティぬいぐるみ(各部門5作品)

※上記受賞作品の中から複数作品をBS日テレにてドラマ化

■応募条件

- ・応募資格 : ① 看護職部門／国内の現役看護職、または過去に看護職に就いていた方
② 一般部門／国内在住の方
③ Nursing Now 部門／国内の現役看護職、または過去に看護職に就いていた方
- ・応募内容 : 「看護」を通して得られた忘れられない思い出やエピソードを800字以内でまとめてください。なお、作品には必ずタイトル(題名)を付けてください。
- ・応募方法 : 郵送または専用フォーム(<https://www.nurse.or.jp/episode/>)より応募。ハガキ・FAXは不可【郵送応募の場合】
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-10 日本経済広告社ビル6階
第10回「忘れられない看護エピソード」事務局
- ・応募締切 : 2020年2月21日(金) 当日消印有効

その他応募条件、エントリー方法などに関しましては、下記URLより詳細をご確認ください。

U R L : <https://www.nurse.or.jp/episode/>

<本件に関するメディアの方からのお問合せ先>

日本看護協会 PR 事務局(インフォメーションセンター) 担当:佐々木
Tel:03-3563-3181 Fax:03-3562-5267 E-mai:sohei@info-ginza.com

■スケジュール

- ・募集期間 : ~ 2020年2月21日(金)
- ・受賞作品発表 : 2020年5月9日(土) 表彰式で発表
- ・映像披露 : 2020年夏、BS日テレにて放送予定

■応募に関する問い合わせ先

第10回「忘れられない看護エピソード」事務局

T E L: 03-5282-8071 (受付時間/10:00~18:00 土日祝日・年末年始除く)

E - m a i l: episode@operation-desk.jp

「看護の日」について

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日は「看護の日」に制定されています。看護の心、ケアの心、助け合いの心を老若男女問わず誰もが育むきっかけとなるよう、旧厚生省により1990年に制定され、2020年は30周年を迎えます。5月12日を含む日曜日から土曜日までを「看護週間」とし、毎年各地で看護に関連したイベントや活動を実施しています。

「Nursing Now キャンペーン」について

看護職への関心を深め、地位を向上することを目的としたグローバルキャンペーンです。世界保健機関(WHO)と国際看護師協会(ICN)が賛同し、ナイチンゲール生誕200年となる2020年末まで世界各国でキャンペーンを展開します。日本では「看護の力で健康な社会を！」をテーマに、日本看護協会・日本看護連盟をはじめ様々な団体が活動しています。

日本看護協会 概要

名 称 : 公益社団法人 日本看護協会

U R L : <https://www.nurse.or.jp/>

設 立 : 1947年

所 在 地 : 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2

事業内容 : 看護職(保健師・助産師・看護師・准看護師)の資格を持つ個人が自主的に加入し運営する、日本最大の看護職能団体。47都道府県看護協会(法人会員)と連携して活動する全国組織で、現在約74万人の看護職が加入中。個人の力だけでは解決できない看護を取り巻く課題を、組織の力で解決し、看護を発展させ、社会貢献する公益社団法人。

<本件に関するメディアの方からの問合せ先>

日本看護協会 PR 事務局(インフォメーションセンター) 担当:佐々木

Tel:03-3563-3181 Fax:03-3562-5267 E-mai:sohei@info-ginza.com

参考資料 第9回「忘れられない看護エピソード」最優秀作品

【看護職部門】「部屋の模様替え合戦」 岐阜県 後藤 史保子さん

ナースコールが鳴る。510号室。

悪性リンパ腫のAさん。化学療法を行うが効果がなく、再発を繰り返している。入院も長期化していた。1日に何度もナースコールが鳴る。看護師の対応や入院生活の不満を漏らしていた。

看護師3年目。チーム編成があり、私はAさんの担当になった。頻回のナースコール、Aさんから聞く不満の声。私に受け止められるだろうか……。

今日もナースコールが鳴る。Aさんの部屋に向かう足は重かった。訪室するとAさんが話し始めた。「治療も効かないし、こんなに足も腫れちゃって。でもね、私はまだ1人で何でもできるの」と。

そして、悲しそうな顔で部屋にあるポータブルトイレに目を落とした。しばらく、沈黙が続く。そしてAさんは、体の変化や迫りくる死の不安などをゆっくり話してくださった。部屋を出るとAさんの娘さんが廊下に立っていた。「母は教師をしていました。生徒から頼られる立場だったのに、今は誰かの手を借りなければならないことがつらいんだと思います。家でも何でも自分でしないと気が済まない人でした」と娘さん。

その日から私とAさんとの部屋の模様替えが始まった。Aさんの部屋は個室、トイレがある。Aさんの「まだ1人でできる」の言葉。ベッド、床頭台の位置を変え、部屋のトイレまでの距離を縮める。2人でベッドからトイレまでのつかまる位置を確認する。日に日に、Aさんの動ける範囲が狭まる。また2人で模様替え。何度も繰り返した。

徐々に状態が悪化し、トイレへの移動は難しくなった。「もう、無理だね。今まで付き合ってくれてありがとう」とAさん。私は「まだ着替えは自分でできるじゃないですか。ごはんも自分で。まだまだ、付き合いますよ」と応える。「そうだね。まだできることたくさんあるよね」とAさんはうれしそうに笑っていた。

患者のささいな言動に耳を傾け、限られた時間の中でどう生きたいのかを一緒に考えること。患者の思いに寄り添う看護師であり続けたい。

【一般部門】「『お母さん』」 山形県 藤本 清美さん

15年前、陣痛で苦しむ私に、「お母さん頑張れ！ お母さん頑張れ！」と、何度も言うナース。私はたまたま、「死んだ子を産むんだから、私、お母さんじゃない」と、泣きながら叫んだ。すると、「何言ってるの！ 赤ちゃんを産むんだからお母さんでしょ！」と、泣きながらそのナースも叫んだ。そして、静かに赤ちゃんが生まれた。男の子だった。

1年後、全く同じやり取りをして2人目の子も死産となった。女の子だった。解剖が終わった娘をあのナースが連れてきてくれた。「とっても美人さんね。お顔にはメス、入れてないからね。はい、お母さん」と言って、娘を私に抱かせてくれた。「またおいで！ 妹でも！ 弟でも！ ねっ！ お母さん！ 信じて！ ねっ！ 生きてね！ お母さん！」

あのナースに、私は何度も「お母さん」と呼ばれた。赤ちゃんはいないのに「お母さん」。にせものの「お母さん」だ。

次の年、妊娠した。この子も死んじゃうかも、という不安はあのナースが吹き飛ばしてくれた。「これが、心臓よ！ お母さん！」

「今日はいよいよ性別判明の日ね！ お母さん」。あのナースは、うるさいくらい私のことを、「お母さん」と呼んだ。「お母さん」と呼ばれるのがあんなに嫌だったのに、なんだかだんだん心地良く感じてきた「お母さん」という響き。そして産まれた。

「3人目のお子さん！ 女の子ですよ！ お母さん！」。あのナースはわざわざ「3人目」と言ってくれた。うれしくて泣いた。

娘が「お母さん」と私を呼ぶ。娘のお友達が、「イオちゃんのお母さん」と私を呼ぶ。もう15年も呼ばれているけど、毎回うれしい気持ちになるのは、天国の2人と、産まれてきてくれた娘のおかげ。あと、私を信じて、私のことを「お母さん」と呼び続けてくれたあのナースのおかげ！

ありがとう！ あのナースさん！

<本件に関するメディアの方からのお問合せ先>

日本看護協会 PR 事務局(インフォメーションセンター) 担当:佐々木
Tel:03-3563-3181 Fax:03-3562-5267 E-mai:sohei@info-ginza.com